

1 資料の特性

先人の姿から、集団における役割の自覚や責任について考える資料である。小川笙船は、徳川吉宗の享保の改革で目安箱を通して江戸の病人にまつわる惨状を訴えた吉宗の命により大岡忠相が指揮を振るい、小石川療養所が建てられ、笙船は養生所の運営を取り仕切ることとなった。貧しき者たちにも手厚い診療を施し、他の人の力も生かして、江戸の町をよりよくしようとする笙船の真摯な姿は心を打つものがある。

役割のあるところには、その役割を必要とする人がいる。そこに気付いたときに、児童は自分の果たすべき役割を自覚できる。定吉や若い医師に接する笙船の姿から集団における役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たそうとする態度を育むことができる資料である。

2 指導上の留意点

笙船の生き様から、役割を自覚することの大切さ、責任を果たそうとする思いを感じ取らせ、そこから自分自身のことを振り返って考えさせるようにしたい。本資料からは、生命尊重や思いやり、親切などの道徳的価値も浮かび上がってくる。これらの道徳的価値についても必要に応じて触れながら、授業のねらいを踏まえて指導に当たることが大切である。

3 展開例

【ねらい】

自分の役割の意義を理解し、協力して主体的に責任を果たそうとする態度を育てる。

事例①

笙船の思いや願いについて話し合う展開

【主な学習】

①定吉の涙を見たとき、笙船はどのようなことを思ったか。

・助かってよかった。金がなく不安だったんだな。かわいそうに。安心させることができてよかった。

②笙船はどのような思いで殿様に訴えたのか。

・このまま病人が増えると江戸は大変なことになる。医者としてなんとかしなければ。

・貧しい人が安心して看てもらえる養生所ができれば、多くの人々の命を救うことができる。

③笙船は、どのような考えから、忙しさの中にあっても、夜遅くまで若い医師の治療を確かめたり、日誌に目を通したり、若い医師に声を掛けたりしたのだろうか。

・せっかく建ててもらった養生所だ。しっかり仕事をして自分の責任を果たしたい。

・貧しい人の生命を多く救うのが自分の使命だ。自分一人ではできないことに限界があるから、若い医者たちにも早く一人前になってほしい。そうすればさらに多くの生命を助けることができる。若い医師

四の視点 重点ページ

集団における役割と責任

1 このページの特徴

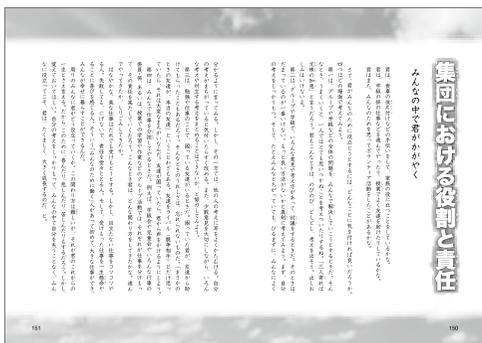
高学年の指導内容の重点の一つである集団における役割と責任を果たすことについてのページである。自分が所属する集団において、みんなのために役立つためには、どのようなことに気を付けなければならないか、四つの場面での具体的事例が書かれている。それらを通して、集団における役割と責任を果たそうとする意欲や態度を育むことができる。

P.150~151

2 活用事例

道徳の時間

道徳の時間の中心的な資料として活用し、四つの場面について、自分自身の在り方を振り返ったり、グループで話し合ったりすることができ



P.150~151

【主な学習】

①笙船の生き方について心を動かされた所はどこか。

- ・ 貧しい人たちのために治療を行った所。
- ・ どんなに疲れていても医者の仕事に全力を尽くし、自分の役割を果たそうとしている所。

②笙船が、どれほど疲れていようと、志ある医者を見て、薬となる薬草を育てながら、貧しい病人の面倒を看続けていたのは、どのような思いがあったからか。

- ・ 医者として一人でも多くの人を助きたい。それが医者としての役目だ。
- ・ 医者として、自分の役割と責任を果たしたい。
- ・ 自分を必要としてくれていて人がいる限り、自分の役割を果たし、人の役に立ちたい。

③一四二ページを読んで、自分がどのような集団でどのような役割を果たしているのかについて、一四三ページに記入して話し合う。

④自分の役割を果たすためにどのようなようにすればよいか、笙船の姿から学んだことを話し合う。